

議事録

【開催概要】

会議名称	第2回 第2次三豊市農業振興計画策定審議会
開催日時	令和5年10月25日(水) 14:00～
開催場所	三豊市危機管理センター 301会議室
出席委員 (名簿順表記)	・豊田正範委員 ・石井智恵子委員 ・堀江博委員 ・横山順一委員 ・石原一也委員 ・筒井英樹委員 ・田中昭徳委員 ・宮崎和代委員 ・細川貴司委員 ・中西正憲委員 ・白井美和委員 ・長尾秀範委員 ・柚本計悟委員 ・福岡伸也委員
欠席委員 (名簿順表記)	・神前知弘委員
事務局	・農政部農林水産課:新延課長、真鍋課長補佐、多田課長補佐、 平川主任 ・(株)ぎょうせい:豊嶋、藤川

1. 開会

●司会

第2次三豊市農業振興計画策定審議会を開催いたします。

本日の審議会は、委託業者も出席させていただいております。また、議事記録のため、録音と撮影をさせていただきます。

議事に先立ちまして、本日の出席人数 14 人でございます。条例第 6 条第 2 項により会が成立しますことを報告いたします。

条例第 5 条第 3 項により、堀江会長に議事進行をお願いします。

2. 議事録署名人選出

●会長

本日の議会の議事録署名人を、選出したいと思います。事務局の方で案はありますか。

●事務局

議事録署名人については、香川県生産農業改良普及センター所長田中委員及び三豊市農政部部长中西委員と考えております。

●会長

では、田中委員、中西委員、よろしいでしょうか。

●田中委員、中西委員

はい。

●会長

よろしく申し上げます。

3. 議事

(1) アンケート調査結果報告

●会長

アンケート結果について、事務局からご説明をお願いします。

●事務局

・アンケート調査結果の報告発表

●会長

今の説明について皆さんからご質問、ご意見等ございませんか。

●田中委員

この 2,000 人というのはどのような対象者ですか。

●事務局

市の認定農業者さん、認定新規就農者さん、水稲共済の加入者さん、面積の多い水稲共済に加入されている方、1反以下の耕作面積の方も含め 2,000 人を抽出し配布しています。

●柚本委員

ただ今、アンケート結果について項目ごとに人数の多い方を取り上げて発表されました。

そういうものが、特性として出ているので、次回の第 2 次計画にも反映されると思いますが、最近言われています多様性という面から言うと、声が少ないながらも注目すべきものがあるのではないのでしょうか。例えば、後継者がいない問題でも、後継者はいるけどやる気がないなど、今決めていないからどうしたらそれが後継者に内定するかということも一例として、考えることも必要ではないでしょうか。

農業振興資金制度について知っていますかという質問に、半数が「知らない」との回答が多い。やはり、このようなことを知った上で回答しないと意味がないと思います。就農者にこんなお得なことがあるということを知っていたので、組合を作ったり、グループでやっているから、色々問題点が出てきたとき、解消しながらやっていくという方法が非常にいいと思います。これについてはまた説明を改めさせていただきます。

●会長

アンケート結果の少ない部分、この部分についても十分に検討し結びつけたいと思います。

他にございませんか。あれば、後ほどでも構いませんので、発言していただけたらと思います。

それでは次の 2 号に移ります。

(2) 事業者へのヒアリング調査結果報告

●会長

農業団体のヒアリング結果について、事務局から説明をお願いします。

●事務局

・ヒアリング調査結果の報告発表

●会長

ありがとうございました。事務局からの説明に対し、委員の方からご質問、ご意見等をお願いします。

●柚本委員

調査した法人や団体の規模はどのくらいのものでしょうか。

●事務局

表記されているものと、1 枚目中央、入樋営農組合、組合員は 24 名、平均年齢 70 歳、面積は

19 ヘクタールと記載していますが、一概に基準というのが特に定まっておらず、複数名でその地域の集落をみんなで守っていこうというものがいわゆる集落営農組織の考え方になります。何ヘクタール必要という考え方ではないので、今回お話を聞かせていただいたところは、活動を活発にされているところでお話を聞いていますので、市内でも経営面積は大きい方だと思います。

入樋営農組合だと 19 ヘクタール、原営農組合だと 15 ヘクタール、こういったところで経営をされていますので市内では規模が大きいという認識です。

● 柚本委員

機械を使っているから一概にはできないですけど、人数でいうとだいたい何人くらいですか。

● 事務局

入樋営農組合だったら 24 人ですので、何百人もいる規模ではありませんが、少ないところでは 4 名の集落営農組織もいらっしゃいます。現在、相談いただいているところでは、3 名で立ち上げようという集落営農組織もいらっしゃるので、少ない人数でも取り組まれているところもありますし、10 名前後で取り組んでいる集落営農組織もいらっしゃいます。

● 柚本委員

さきほどの説明では、候補者がいなくて、後継者等の問題が色々あるので、そのような方を集落営農へ入れて拡大するという考えはないのでしょうか。

● 事務局

集落営農組織の中でも後継者問題はありまして、集落の中に跡取りとなる息子さんや、若い農業者がいらっしゃらないのが課題になっている集落営農組織が多いです。現状、若い方はお勤めに行かれ、土日にお手伝いに来てくれるかどうかというのが現状です。課題として、組合長を含めて考えておられると聞いています。

● 柚本委員

三豊市としては、各団体に対し回答や対策をしていますか。

● 事務局

主に農業改良普及センターが中心となり、市の担当も一緒にお伺いしています。県の事業で、このような若手をスカウトしたり、育てたりするメニューはあるのですが、人材がいないので取り組む方がおらず、そこが課題に思っております。その辺りを掘り起こし、活動など考えていかなければと思っております。

● 柚本委員

団体を立ち上げて、辞めたという所はないのですか。

● 事務局

ここ数年、辞めたというのは聞いておりません。

● 会長

他の皆さんありませんか。

では意見があれば、後でも発言をお願いしたいと思います。

(3) 今後のスケジュールについて

● 会長

第 3 号、今後のスケジュールについて事務局よりお願いします。

● 事務局

今回は、アンケート調査、農業団体のヒアリング結果報告をさせていただきました。このアンケート結果と、ヒアリング結果を踏まえ、いただいたご意見等、計画へ反映し素案、叩き台の作成をしていきます。その内容について11月下旬から12月中旬で、3回目審議会の開催を考えております。

その後、素案が固まったところでパブリックコメント、市民の皆様にご意見を聞くという形を1月ないし2月に取組をさせていただきたいと考えております。

そのパブリックコメントの実施後、最終審議会で、第2次農業振興計画(案)の最終確認をいただくのが2月下旬から3月の頭で考えております。今後の予定としては第3回目を11月の下旬から12月中旬、最後の確認を2月の末から3月上旬というところで準備をしていきたいと考えております。次回については素案の確認と考えております。

●長尾委員

今回の調査結果の1つ目で、アンケートを答えてくれている方が60歳代と非常に高齢者に偏った意見なのが心配するところです。できれば、今日若い方がかけつけていただいているので、少しご意見をいただけたらと思います、いかがでしょう。

●会長

意見がありました農業を一生懸命やられている方がその年齢ということで、高齢者がこのアンケートを書いていたというような歪みもあろうかと思えます。

今のような意見も出ましたので、若い委員さんの方から一言、どんなことでも構いません、要望なりご意見等いただけたらと思いますお願いします。

●横山委員

今後10年間の計画ということで大事な計画だと思います。そうすると、これからは高齢化により農業ができなくなってくる人が増えてくるので、能率の良い地域を絞っていかないと今後の農業を支えていけなくなってくると思います。

●会長

ありがとうございます。今の若い農業者で農業を守っていくのは、高齢化が進んでおり、これからは難しいという意見であります。他委員さんございますか。

●細川委員

先ほど横山委員さんの言われた通り、農業をする効率のいい場所が多分あると思うので、そのようなところへ集約するというのは必要だと思います。

それに対し、山間地の農業も、若い世代では効率的に作業ができないと考えられ、保全地域と農業振興地域という形で分ける必要もあるのかと思えます。

保全地域に関しては、離農した方が戻ってこれれば自分の農地を守りながら農業していけるような、収益ではなく土地を守っていく暮らしのようなことに注目する形を取る必要があるのではないかと感じています。

●福岡委員

若い就農者も情報を仕入れてやっていく方が良いと思うのですが、自分で調べないと情報を獲得できません。若い人も情報を仕入れていくことを市などの公共団体が発信するといったのではないかと思います。

●宮崎委員

市長などが農業へ力を入れてもらい、職員の仕事が進むよう人員を増やし、農業者の意見を吸い上げてくれる担当者を採用するなど、市としても農業が衰退しないよう力を入れていただけたらなと思いま

す。

●会長

ありがとうございます。せっかくの機会でございますので、センター長、営農や振興計画で何か参考になるようなことがあればお願いします。

●筒井委員

先ほど、いろんな情報を交換したいというお話がありましたけども、農協の方で年 3 回程度、品目別に相談会などの活動しております。様々な意見をいただき、そのようなところも含め計画作成するという事で、現状にあった計画の作成をするということでお願いしたいです。

●白井委員

条件さえ良ければ代わりに農業をやってもらえるが、地域よってばらつきがあるかもしれません。そこは上手く農業委員会に繋げていけば良いと思いました。

もう一つは、面積拡大をせざるを得ないのではないかという点です。そうすると機械化をしないと作業が間に合わなくなるのでそういう対策をしていただきたいと思います。

●石井委員

私は味噌を造っているが、必要な大豆を買おうと思っても市内で作っているところがありません。県内の素材で作ると甘みが全然違うので、それをどうしたものか考えています。

●田中委員

県、国で担い手施策ということでやってきたことありますが、担い手だけを守るといのはなかなか無理になっていますし、その中で今後生産性のいいところを守らなければならないので、ここはどう守っていくかという点を探り当てながら施策を考えなければならないと思っています。趣味的な農業者の形で、上手く農地を守れたらいいだろうと思っています。ただ、センターとしても大事なものは人だと思っています。

私は小豆島に 8 年間赴任して、その時言っていたのが、讃岐本土(小豆島から見た他の香川県の自治体の呼び方)に 10 年住んでいた人がこれから小豆島に住むというのをよく聞いていたのですが、4 年ぐらい前に所長として行ったとき、それは滅びていませんでした。

やはり、移住者とはまた違った同業者の形態が入り、そこで展開しているので様々な農業形態を考えつつやっていく必要があると思いました。先ほどの小さな意見も大事だというのはその通りだと思っていますし、大きな方針の中でそれをどういう風に表記していくかはとても大事だと思います。

どんどん儲ける形態と、農地を守っていく形態というのは政策が違うのだらうと思います。

●副会長

農業振興計画の計画期間が、2024 年で 10 年間となり役割は果たしていると思います。これからの第 2 次振興計画を策定していくわけですが、今までの 10 年間と大きく環境が変わった中で、10 年後の見通しを立てるとい、かなり難しい印象を持っています。いただいた資料の年齢構成のところ、60 歳くらいの方が多いのですが、50 歳代以下では就農者が減っていく中で、そのような方々が中心となっていく中での基本計画ということで、非常に難しいところといった感想ですが、事務局の皆様方には忙しい中でもぜひよろしくお願いしたいと思います。

それから、今回の資料で自由記述のところを拝見しますと、本当に大変な意見がたくさんありました。

これを解決するのは行政とか農業者だけでは難しく、一般の方々がどれだけこういう問題を認識していて、それにどれだけ関わっていけるのかということが大事という気がします。

特にお米の値段は国が動かないとどうしようもない所ですし、その中で一般の人の現状に対する認

識というのは、もっと目を向けてもらわなければという感想でした。

●会長

皆様のご意見、ありがとうございました。

●長尾委員

農業基盤の整備という形で、農地、ため池、農道水路の改修などについて、非常に皆さんの思いがあるということがわかりました。こういうことを担当しているのは私たち土地改良事務所です。

皆さんのこれだけの要望が事務所まで挙がっているのか、そこまでできていないのではないかと自分を戒めるところでもあります。この要望をきちんと達成していけるよう、気が引き締まる思いです。

皆様のご意見大変ありがとうございました。特に細川さんの仰っていただいた、保全地域と振興地域を分けて考えること、その保全地域よりもその土地を守る、暮らしを守ると、こういったことができれば非常に良いと思います。もう 1 つの振興地域として収益を上げることについて、保全地域をいかにして守るかが大きな課題です。

なかなか手法が見つからないところで、これも私個人の考えですが、農業には所得保障を入れていくべきだと思っております。所得保障を入れることで保全に対しても国からの予算をもらう、これでやっていくしか方法がないかと思っております。皆さんどうもありがとうございました。

●柚本委員

これは提案ですが、今まで言ったようなやり方で個人からアンケートを取り、団体からもそれをずっとやっていたら、10年後、20年後も、(計画内容が)同じようなことをやっていて、現状ほとんど変わらないと思います。それで、そういうものを統合して、それで大きな企業に参入してもらって、そして機械を導入し色々やるという、そういう構想っていうのは必要ではないかと思いました。今何か、という話ではありませんが、そういう発想で進めるということも必要ではないかと思いました。

●会長

ありがとうございます。石原委員さんからも何かあればお願いします。

●石原委員

市役所の政策部です。皆様のお話を色々承っていて、やはり今 1 番は、合併した時は 7 万 2000 人いた人口も今 6 万を切って 5 万 9000 人、1 万 3000 人減りました。ということは、この 18 年ぐらいでおよそ 2 つの町分に相当する人口の減少となります。しかし、面積は変わらずあります。先ほど冒頭で堀江会長からお話のあった通り、当然ながら荒廃農地であれば横山さんや細川さんのおっしゃった通り、保全と振興地域というのは作っていかないと難しいということと、今の時代、コロナによってなおさらコミュニティは疲弊し、人との繋がりが薄くなってきた中で、これだけでやっていくことが非常に難しいので、先ほどあった営農集団などの体制作りの支援はやっていかないといけない、個人でやっていくというのも難しいし、持続しないだろうと思います。その辺りを皆さんの意見いただいた中で、この農業振興計画が持続するものになっていけたらいいなと思っております。

●会長

ありがとうございます。中西さんも、何かあればお願いします。

●中西部長

失礼いたします。本市で農政部を預らせていただいております中西と申します。本日は貴重なご意見、色々ありがとうございました。また、今回アンケート調査をさせていただき、1200 名あまりの方々から貴重なご意見をいただきました。こういったご意見がぜひ次の振興計画の中に反映できていくよう、事務局としても色々計画をこれから練っていくことであろうと思っておりますし、私も、その辺りは色々考え

も入れさせていただきながら、この先 10 年、20 年と三豊市の農業が続いていけるような計画になっていきますよう、この場をお借りして、皆さんの前でお約束させていただければと思います。ぜひ、今後ともよろしく願いいたします。

(4)その他

●会長

ありがとうございました。貴重な意見ありがとうございました。また、意見等ありましたら後でも構いませんので、次に進めさせていただきます。第 4 号のその他の件について事務局から説明をお願いします。

●事務局

先ほど、今後の予定のところでご指摘いただいた通り、スケジュールを確認次第、案内させていただけたらと考えております。次回は 11 月の末から 12 月の中旬ぐらいで予定をさせていただこうかと思っております。またその際にはご出席いただけたらと思います。その他については以上でございます。ありがとうございます。

●会長

全般を通してご質問、ご意見ございましたら承りたいと思いますいかがでしょう。

無いようでしたら、本日の審議はこれにて終了させていただきます。ご協力ありがとうございました。

4. 閉会

●司会

長時間ありがとうございました。閉会にあたりまして閉会の挨拶を香川大学豊田教授にお願いしたいと思っております。よろしく願いいたします。

●豊田委員

先ほど申し上げさせていただきましたけども、今までの 10 年間よりも更に難しいこれからの計画ということで難しさがあるかと思っております。けれども、担い手の皆さんなど多様な生産者がいらっしゃると思いますが、多くの多様な皆さんの方から、共感できる計画を作成していただければと考えております。ということで素案の作成について事務局の皆さんよろしくをお願いします。

●司会

ありがとうございました。以上で第 2 回第 2 次三豊市農業振興計画策定審議会を閉会させていただきます。本日はありがとうございました。